



今月の
大槌
びと

関谷 良子さん

(60歳)
ふれ愛エアロ代表

恩返しは「自分の姿」

6月に行われた希望郷いわて国体のデモンストラーションスポーツ「エアロビック」で、優秀賞に輝いた「ふれ愛エアロ」練習場所には、軽快な音楽と、元気いっぱいの笑い声があふれます。代表を務める関谷さんは、エアロビを始めて30年。「魅力は『下手でも楽しい』と思えて、気持ちの良い汗がかけること。体を動かしたくて、うずうずしてくるんです」。



震災後、メンバーの希望に応え、避難所での「青空レッスン」から活動を再開。しかし、一緒に全国大会へ出場する予定だった仲間の1人が行方不明になりました。練習も満足にできない中、「たとえ賞を取れなくてもいい。そのメンバーのためにも、全国の皆さんに『ありがとう』を伝えに行こう！」と出場を決意。演技に込めた思いが通じ、最優秀賞を勝ち取りました。その後も数多くの大会やイベントに参加し、挑戦を続ける関谷さん。9月18日には、東北大会に挑みました。「60歳になっても、大会に挑戦できるんだという姿を見せたい。これが、一緒に頑張ってきた仲間たちへの恩返しです」。

3.11 あの日から未来へ



けむやま
煙山 タマさん
大正7年4月15日
～平成23年3月11日
(享年92歳)
大槌町安渡2丁目13の9

人生のあゆみ

大槌町町方に生まれ、三人姉妹の次女。実科高等女学校を卒業し、十代後半で結婚、一男一女を授かりました。夫が軍医として戦争に召集され、戦時中、女手一人で大変苦労し、暑い夏、仕入れのためリヤカーを引きながら終戦を迎えました。夫が亡くなった後、一家の主として煙山薬店(商店)を切り盛りしながら子供を育て上げました。

たばこ組合での店舗コンクールなどで受賞したことや親戚との交流も盛んで、全国各地へ旅行に行くことが多く楽しい思い出となりました。

晩年は腰痛を患い出歩くことはできなくなりましたが、庭の手入れや花を育てることに一生懸命で、83歳に大腿骨骨折の時も、ケガになんか負けない!とリハビリを頑張ったことから88歳まで店頭に立ち、近所の方々

に元気な姿を見せていましたが、その後、体調を崩し、震災時は自宅で寝たきりでした。

震災時の状況

地震時、寝たきりだったため、娘、孫と自宅にいました。消防団長の娘婿が外出先から戻り出動準備をしていた時は、いつもと変わらない様子で孫が世話をしながら食事を取っていました。

15時15分頃、介護ヘルパーさんが自宅前を通りかかりましたが、シャッターが閉まっていたため中の様子をうかがうことができず、恐らくそのまま自宅に留まっていたものと推測されます。

伝えたいこと

「これまでの地震と同様、今回もすぐ自宅に戻れると思っていた。皆に逃げろと声をかけて、義母を背負ってでも逃げればよかった。これまで長生きした人生の終焉がこのような苦痛を伴う悲惨な形となり、きれいな花に囲まれた最後の弔いができなかったことが悔しくとても残念。天国でたくさんの花に囲まれて笑顔で見守ってほしい。」

煙山佳成さん(娘婿)

うちでの大槌!

町方遺跡

盛り土の下に息づく歴史

江戸時代、南部藩の代官所が置かれ、沿岸の中心都市として栄えた大槌町。町方にある旧商家の跡地「町方遺跡」からは、建物や水路の遺構、陶磁器の破片や銭貨などが発見されました。復興に向かう町の盛り土の下で、歴史が現在も息づいています。



「ふるさと科」の授業の一環で、発掘作業を体験する大槌中学校(当時)の生徒=2014年7月